

【農と環境を活かしたまちづくり黒川地区基本計画(案)】



「農と環境を活かしたまちづくり黒川地区基本計画」とは

黒川地区では、「農産物等研究専門部会」「地域活性化検討専門部会」「里地里山保全利活用専門部会」の3つの部会により、平成28年より具体的な農と環境を活かしたまちづくりを進める予定である。

そのため、平成26年度では、平成28年度からの本格実施に向け、農と環境を活かしたまちづくりの方向性、道筋、具体的な取り組み等について、基本計画としてとりまとめるものである。

平成27年度には、具体的な実施計画を作成し、本格的な活動につなげていく。

基本計画及び実施計画の作成にあたっては、様々な取り組みを具体的に試行し、評価を行いつつ、実施の取り組みを見定め、計画にまとめていく。

また、本まちづくりでは、各部会での個々の取り組み課題を総合的解決につなげ、黒川地区の「地域-人-資源」をつなぎ、一体的な活動の起爆剤となる「デザイン祭(仮)」を開催する。

1 背景

農が抱える課題

- 都市農地の再評価と保全策への対応
- 農家・農業後継者の減少
- 既存の農業経営から高齢社会を見据えた都市農業経営への転換
- 「農」に対する全市的な合意形成

解決の方向性

- かわさき「農」の新生プランにおける推進体制の確立

緑が抱える課題

- 黒川地域を含む多摩丘陵の自然環境の保全にむけ、農業施策と緑地保全施策の連携の必要性
- 生物多様性の保全や環境学習の確保等の観点から里地里山環境の保全と「農ある風景」の継承

解決の方向性

- 市民協働による地域ぐるみの緑地保全活動の推進

地域が抱える課題

- 第1期区民会議の議論
区特性である「農」を通じた、「地域づくり」への活かし方
- 第3期区民会議の議論
市域の緑が43%集積する区の緑の維持管理の仕方及び市民ボランティアなどの力の活用方策

解決の方向性

- 区の資源である農と緑を活かしたまちづくりの推進

地域・関係者間での課題解決への施策検討・計画及び試行実施



黒川地域での変化（地域資源の創出）

- 平成20年に大型農産物直売所「セレサモス」の開所
- 平成24年に明治大学黒川農場の開場

黒川地域連携協議会：平成21年設置（平成25年度改訂）

目的：明治大学と川崎市が「農業研究・実験機能」、「山林の保全と活用機能」及び「農業体験・交流機能」における連携を通じた地域づくりの推進。

組織：具体的活動の推進するため「農産物等研究専門部会」「地域活性化検討専門部会」「里地里山保全利活用専門部会」の3つの部会を立ち上げ、相互連携を図りながらテーマに沿った活動を行う。

2

対象地

下記の農業振興地域を中心に、里地里山保全等地域を対象とする。



3

基本目標と基本方向

基本目標

地域で守り育てる身近な農と環境

～地域の農業資源・環境資源・人的資源を活用した
地域の活性化や地域交流の推進～

基本方向



4

実施方針

実施方針

地域・大学・区民・行政等の協働により下記の方針を推進

地元農産物の販売促進
と加工品の開発

農や里地里山を体感する
イベントの実施・PR

里山の管理や活用の推進

実施体制と役割

農産物等研究専門部会

農畜産物、林産物及び加工品の栽培や販売などにおける課題を整理し、地域の活性化につながる農産物等の調査・研究を行う。

- ①新規農産物や郷土農産物の栽培推進
- ②農産加工品の開発検討
- ③農産物等のイベント活用やPRの推進

地域活性化検討専門部会

農や緑、環境を通じた地域の活性化や地産地消の推進につながるイベント等の実施や必要な施設等の検討を行う。

- ①農と里山の認知促進
- ②農と里山の体感
- ③地域資源の発見・創造・育成

里地里山保全利活用専門部会

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

- ①里地里山の体験・利活用
- ②里地里山の保全管理

5

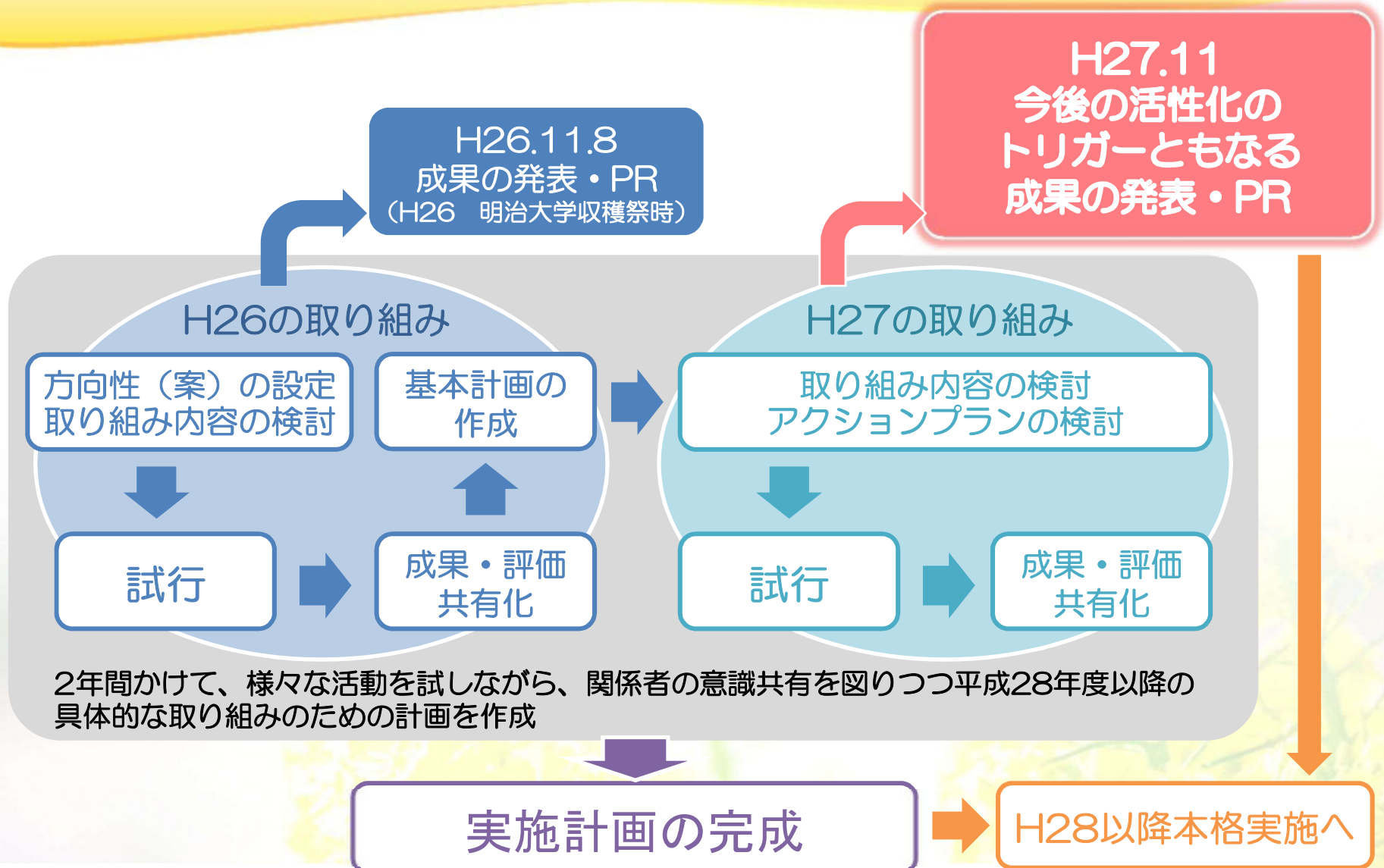
H28以降の本格活動の実施事項(案)

現時点での、平成28年度以降の具体的な活動内容を基本計画としてまとめるが、平成27年度も今年度と同様試行的取り組みをしながら、最終的な活動内容を決定していく。

	取り組みの方向性	取り組み事項	具体的内容
農産物等研究 専門部会	①新規農産物や郷土農産物 栽培の推進	新規農産物や郷土農産物の研究及び 試行栽培、普及活動	・継続的な研究と栽培の試行 ・栽培マニュアル、試食会等による農家への普及
	②農産加工品の開発検討	農産加工品の開発、新規商品開発 商品化、販売	・農産加工品の検討、商品開発 ・ブランド化の検討や試食会の実施
	③農産物等のイベント活用や PRの推進	農産物等のイベント活用やPR	・地域活性化検討専門部会との連携イベント ・農産物や加工品のPR
地域活性化検 討専門部会	①農と里山の認知促進	農産物や農環境のPR 農と環境のまちづくりの活動情報発信	・HPを活用した取り組み紹介とイベント等PR ・他イベントと連携したPR
	②農と里山の体感	イベント・講座の開催	・食育イベント・グリーンツーリズム、農業体験＋料理教室、散策イベント
	③地域資源の発見・創造	地域資源の発掘・創造	・地場産物を活用したレシピ研究 ・農産物等研究専門部会と連携した資源創造
里地里山保全 利活用専門部 会	①里地里山の体験・利活用	里山体験イベントの実施、里山の利活 用の検討	・里山の利活用の検討
	②里地里山の保安全管理	市民団体等の里山活動支援や人材育 成支援、里山環境の保全方策の検討	・里山保全活動団体のPR等側面支援 ・里山保全方策の検討
3部会共通	市民や地元等の意向の把握	アンケートやヒアリングによるニーズ等 の把握	・イベント等でのアンケート等の実施 ・地元農家等へのヒアリングの実施
	大学・地域連携	大学や地元農業者と連携	・各種取り組みでの連携推進
	デザイン祭の開催	3部会連携PR・イベントの実施	・デザイン祭(ブレ)の開催(平成27年度) ・デザイン祭の開催(平成28年度)

6

＜参考＞平成26・27年度の取り組みの流れ



＜参考＞平成26・27年度の取り組み概要

	平成26年度	平成27年度		
黒川地区（黒川地域連携協議会）	農産物等研究専門部会 事務局：経済労働局農地課 座長：明大黒川農場特任教授 佐倉 朗夫 会員：JAセレサ指導相談部 JAセレサ黒川支部 行政 ほか	試行的取組み ○新規作型や新規農産物の試作 明大農場との協働で岩ちゃん豆の試作、生育記録の作成  ○食品加工品の検討・商品開発 明大農場との協働でしかく豆の試作及び加工品の作成、収穫祭などでの、アンケート調査 	明大農場との協働で作成する作型マニュアルの周知・普及  食品品評会や料理教室などでの加工マニュアルの周知・普及 	【農と環境月間】 10月初旬～11月中旬 盛り取り体験等先行イベント開催 オープニング 明治大学黒川農場収穫祭 黒川里地里山デザイン祭 里地里山の今・昔・未来のあり方・関わり方の「デザイン・アート作品」展示 里地里山環境の保全や重要性、マナーを訴える「環境作品」展示 里や里山、農産物等を活用した食・体験イベントの実施 エンディング JAセレサ農業祭り
	地域活性化検討専門部会 事務局：麻生区役所企画課 座長：明大黒川農場特任教授 藤原 俊六郎 会員：JAセレサ指導相談部 黒川観光農業振興会 黒川町会 行政 ほか	試行的取組み ○農と環境が体感できるバスツアー実施 セレサモス、明大黒川農場等において取組み説明や収穫体験等を行う。 ○麻生の農と環境を考える（食農） 黒川産の野菜を使用したクッキング講座の開催と排出される生ごみを堆肥化する講習会を開催する。 ○体験農園での盛り取り 親子でサツマイモ・落花生の盛り取り体験実施 ○農と環境のホームページによる情報発信 各部会での取組み内容や連携する団体でのイベント情報の提供 ○明大収穫祭への協力 明大農場における禅寺丸柿記念植樹 農と環境のまちづくりの取組み説明とアンケートの実施	農家が貸し出している市民農園（黒川） 明治大学黒川農場校舎 バスツアー、食育、盛り取り等を実施するとともに他団体と連携したイベントの検討を進める。  明大収穫祭での禅寺丸柿や禅寺丸柿を活用したワインやスイーツの試食会の開催 	
	里地里山保全活用専門部会 事務局：建設緑政局みどりの協働推進課 座長：明大黒川農場客員教授 三谷 満 会員：JAセレサ常務理事 里地里山保全団体 行政 ほか	試行的取組み ○里地里山を体験できるイベントの実施 里地里山を歩きながら、実際に現場の管理手法やゴミの収集等を体験し、保全活動に対する意識の醸成を図る。 	○里地里山マナーアップ向上策として地域と協働で、マナー啓発看板の設置 不法投棄への対応策検討 	
	(仮称)地域コミュニティ農園の研究 事務局：麻生区役所企画課 明治大学農学部専任講師 本所靖博、農家、市民団体、大学生	試行的取組み ○農家、大学、団体、区民、行政の協働による菜花栽培・搾油 ○大学生、団体と協働による菜種油と黒川産野菜を活用したスイーツレシピの検討	○コミュニティ農園のあり方検討 ○菜花耕作地の候補地探し ○麻生産野菜を活用したスイーツレシピの作成 ○スイーツレシピを利用した店舗との協働	



【(仮)平成27年度のデザイン祭(プレ)に向けて】

～2年間の試行の総括と今後の活動の起爆剤として～



1 背景

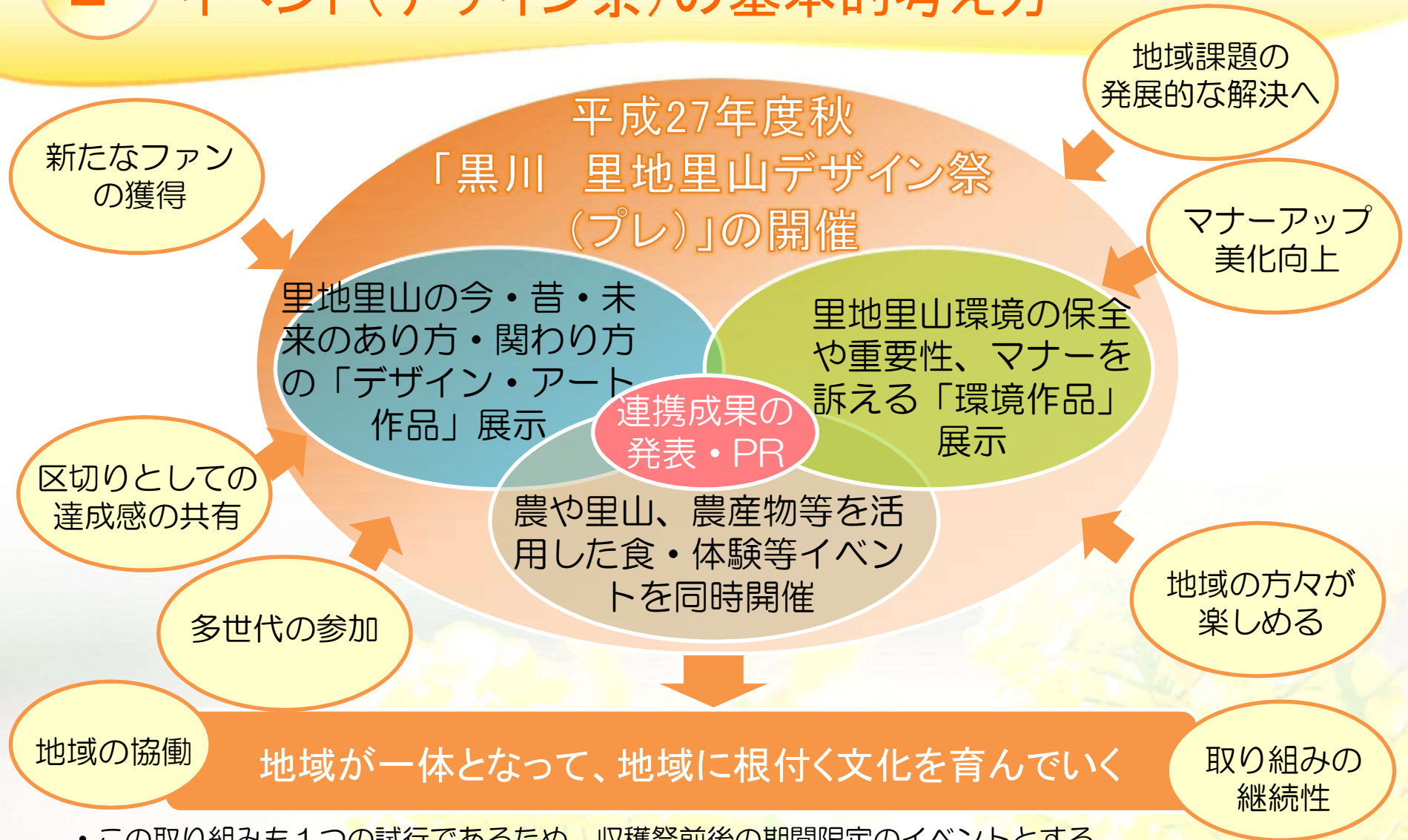
基本目標の実現に向けた現状の取り組みの課題

課題	対応の視点	対応の方向性
各部会での情報発信・PRでは、 情報発信力がやや弱い。 試行的取り組みに対する 体感・実感 できる到達点が やや希薄。	達成感の共有化	関係者や地域が一体となって発信でき、2年間の試行の目標や達成感が持てる区切りとなるイベントの実施。
農と緑を主体とした取り組みでは、 興味対象が限定される。	興味対象の拡充	黒川の自然環境を舞台に、農と緑以外の手段により、新たなファンを獲得する。
生活に密着した活性化の取り組みが主体で、 農業者間での温度差が懸念される。	地域住民が楽しめる	農業者等地元の方々も楽しめ、やりがい、新たな発見を喚起する取り組みの実施。
一部、親子等参加はあるが総じて高齢者層等、 参加者の年齢層の偏り が懸念される。	多世代参加	次世代を担い、情報発信力のある若者を中心に多世代が関心を持てる取り組み。
単発的な取り組みでは 継続性や連続性 を持たせることが 難しい。	継続性	黒川の、麻生区の、川崎市の文化として根付いていく取り組みの実施。



現状の課題の包括的解決を図りつつ、地域が一体となる「イベント」の開催

2 イベント(デザイン祭)の基本的考え方



- この取り組みも1つの試行であるため、収穫祭前後の期間限定のイベントとする。
- 27年度は試行とし、28年度本格実施する。

3

実施概要(案)

『黒川里地里山デザイン祭』 ～黒川地域の農と緑を活用したイベント～

<p>テーマ</p>	<p>農・人・時間・資源をつなぐ</p>
<p>目的</p>	<p>黒川地域の里地里山をステージに、「地域-人-資源」をつなぎ、里地里山のあり方を考える機会とすることで、現在の黒川における農や環境を知り、地元住民だけでなく来訪者と課題を共有することで“自分事”にし興味者の拡大、ファンを獲得するものとする。「地域コミュニティづくり」「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を主要目的とした地域住民と興味者のマッチングプロジェクト。</p>
<p>内容</p>	<p>「里山は人が自然を創造する最前線※」を理念に、黒川エリアを里地里山のあり方を考えるキャンパスと見立て、若者と地域住民等とが共創し地域に根ざした作品（もの、こと、食）を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とするデザイン祭。</p> <p>※里山＝自然と人里に隣接した、人の手や影響を受けた生態系や環境</p> <p style="text-align: center;">地域住民・制作者・来場者ともに里山を考え、創造するイベント</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>制作者・地域住民</p> <p>里山(黒川の環境)をテーマに 作品(もの、こと、食)を共創</p> </div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>来場者(興味者)</p> <p>作品に触れ・体験し 里山の昔・今・未来を歩いて知る</p> </div> </div>

4

基本的な進め方・実施体制等

(1) デザイン祭への進め方(基本的考え方)

- ・1つの目標に向かって、様々な主体が協働しながら、活動することで様々な課題をゆるやかに解決しながら、作品等をつくりあげていくプロジェクト
 - すなわち、デザイン祭までの過程・道筋が重要なプロジェクト
 - 地域・人・資源をつなぐプロジェクト
- (×単にアート作品を置く→○時間をかけ地域や人と対話しながら作品を制作)

(2) 推進体制

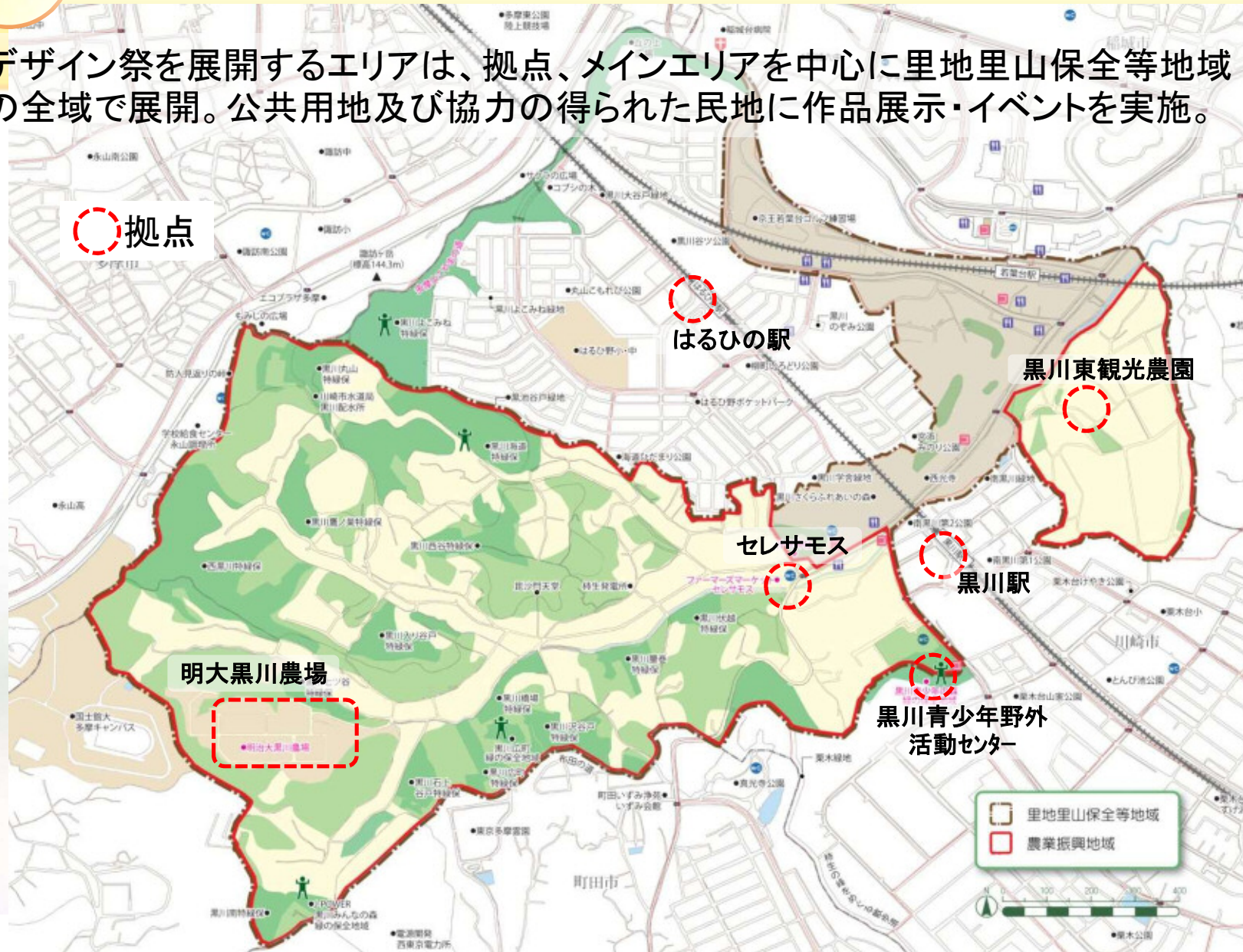
黒川地域連携協議会-----デザイン祭実行委員会(事務局)
(各専門部会のメンバー等により構成)

(3) デザイン祭の担い手

地元住民、地元農業者、市民農園や体験農園等に関わっている方々、セレサ川崎、神奈川県農業技術センター、明治大学(その他麻生区連携大学(和光大学、昭和音楽大学、日本映画大学、田園調布大学、玉川大学)、市民団体、近隣小学校、マイコンシティ関連企業、黒川青少年野外活動センター、麻生区役所、川崎市緑政部・産業振興部・農業振興センター、市民ボランティア等(順不動)

5 里地里山デザイン祭展開エリア

デザイン祭を展開するエリアは、拠点、メインエリアを中心に里地里山保全等地域の全域で展開。公共用地及び協力の得られた民地に作品展示・イベントを実施。



6 実施する主な枠組み(デザイン内容について)

本イベントにおいて、「里地里山デザイン」「ライフスタイルデザイン」「農産物デザイン」「コミュニティデザイン」を行うことで、「興味者の獲得」から「共感・ファンの獲得」を視野に取り組みを展開。

■里地里山デザイン

＜「デザイン作品」創作・展示＞-和光大学芸術学科協力

- ①里地里山をテーマしたアート作品の展示
- ②里地里山をテーマした環境作品の展示



■ライフスタイルデザイン

＜里地・里山体験＞

地元者と来場者の共有の場として体験イベントを実施



■農産物デザイン

＜農産物商品の創作・販売＞

地元農産物及び農産物を活用した料理や加工品の試食会や販売等による食体験



■コミュニティデザイン

＜市民、地元住民、農家、大学、ボランティア、企業、行政等の多様な協働・交流＞

様々な人を介在して、農や里山の関わりを持つことで、自分事にすることで共感獲得



7 デザイン祭でのアイデア例

平成27年度の様々な協働作業の中での成果をデザイン祭として発現できる様々な企画を実施していく。下記は、参考としてデザイン祭取り組みの一例を提示。実際には各部会においても、アイデアを集い実施していく。

カテゴリー	実施事項	担い手
里地里山デザイン	①大学と地元農家との協働による農のアート作品づくり	和光大学芸術学科、地元農家
	②大学生による森のアート作品づくり	連携大学
	③大学生と小学生によるecoデザイン環境作品づくり	連携大学、小学生
	④大学と地元農家による里山マナーアップサインづくり	連携大学、地元農家
	⑤大学と小学生によるビオトープづくり	小学生、連携大学、地元農家
ライフスタイル デザイン	①小学生と大学の協働による里山遊び道具づくり →デザイン祭時に里山遊び場・イベント活用へ	近隣小学生、連携大学
	②小学生と市民団体による米作り体験と田んぼアート	小学生、市民団体、地元農家
	③地元ガイドによる里地里山ツアー	地元住民
	④地元農家のお宝展示と体験(古い農機具等)	地元農家
	⑤野外コンサート、野外演劇	市民団体、連携大学
農産物デザイン	①地元農家の主婦による地場野菜を活用した創作料理	地元農家の主婦
	②近隣レストランでの地場野菜メニューの提供	近隣飲食店
	③掘り取り体験と黒川産野菜を使った料理教室の開催	JAセレサ、東京ガス、麻生区

7 デザイン祭でのアイデア例(イメージフラッシュ)

農や里山を活かしたアート作品展示(野外アートミュージアム)



農や里山を活かした環境作品展示(ペットボトル風車・ビオトープ・農家のお宝(昔の農機具)展示、かかし等)



7 デザイン祭でのアイデア例(イメージフラッシュ)

農や里山の体験イベント(堀取り体験、里山遊び、工作、散策ツアー、野外コンサート、野外演劇等)



地元野菜、及び地元野菜を使った料理や加工品の試食・販売による食体験

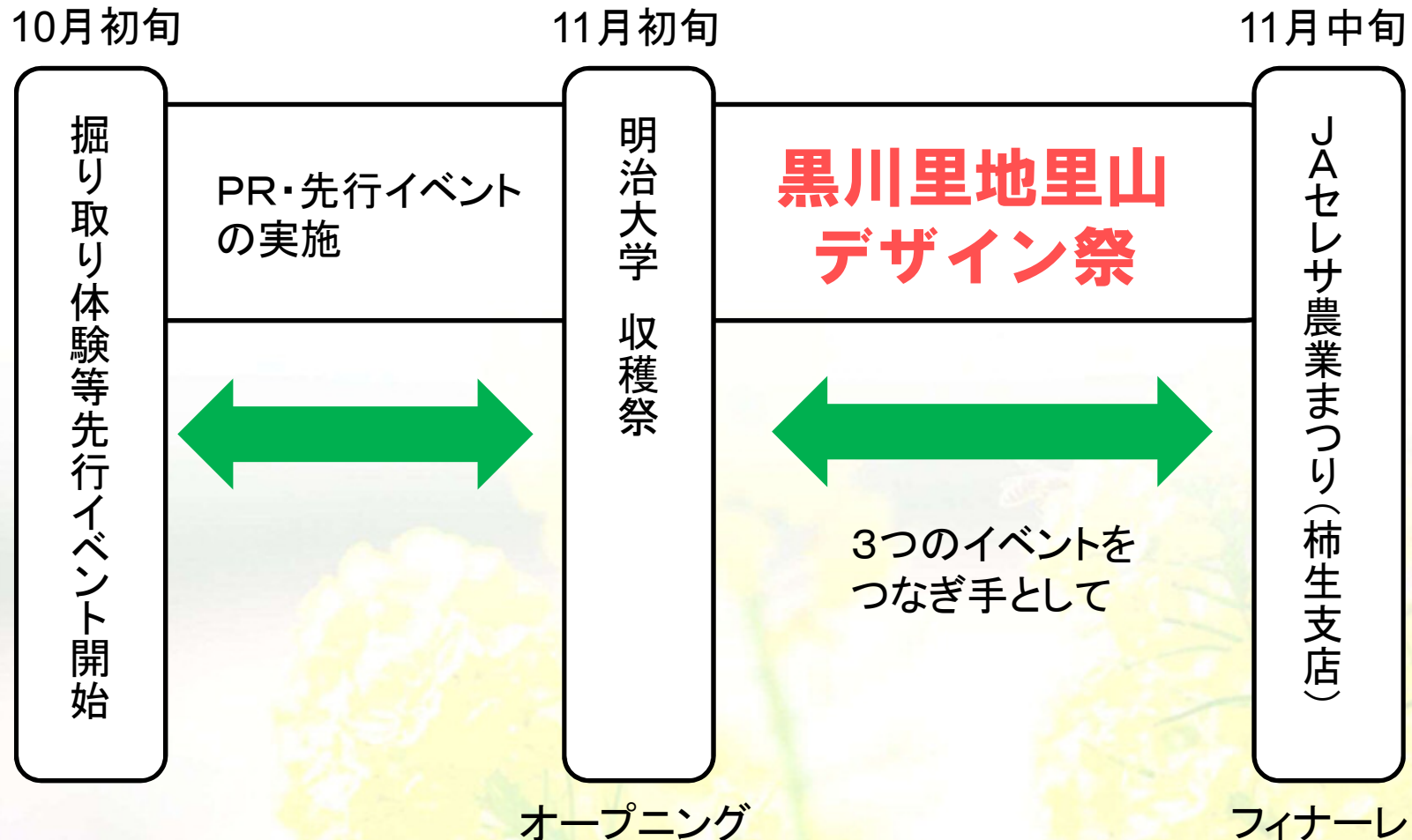


来訪者、地元住民・農家・市民団体・大学生・子供・市民・企業等の交流・協働



8 実施期間(たたき台)

平成27年度デザイン祭（プレ）では、明治大学の収穫祭をオープニングに、JAセレサ農業まつりまでの期間を開催とし、3つのイベントのつなぎ手の役割を果たす。



9

開催に向けたスケジュール

平成26年10月	平成26年度第2回黒川地域連携協議会 平成27年度デザイン祭（プレ）骨子案決定
平成26年12月	具体的実施事項案の決定
平成27年1～4月	担い手との調整
平成27年5月	作品やイベントづくりスタート
平成27年6月	第1回黒川地域連携協議会
平成27年8月	デザイン祭に向けたPRイベント （各種イベントを集中的に実施し、PR）
平成27年9月	本格的PR開始
平成27年10月	第2回黒川地域連携協議会 作品やイベントの現地準備開始 デザイン祭プログラムの完成
平成27年11月	デザイン祭及び収穫祭の開催



10 開催に向けた留意事項・調整事項

円滑な開催に向け、以下のような留意事項、また事前に調整すべき事項があげられる

- 黒川デザイン祭の運営をどのように行うか（平成27年プレ実施、平成28年本格実施後、協議会において検討が必要であり、平成29年以降については、関係者による実行委員会形式にする等）
- 地元住民の参加
- 活用可能な場の確保（公共用地及び民地）
- 担い手との調整
- PR戦略

